

㊦SR-X_{MK-2}を耳にかけるとき

①ヘッド・バンド(つる)はだれにも合うように設計され、調節の必要をなくしました。

②左右のスライド金具(つの)は広範囲に上下できるので、ご自分に合うよう調節してください。

③そのとき、耳当パッドの音道(中央のアミ目)位置ですが——、これが前後あるいは上下することで音質が変わります。ご自分の好みどおりで差支えはないのですが、図-5のような位置にすると、最もよい結果がえられますのでお試しください。

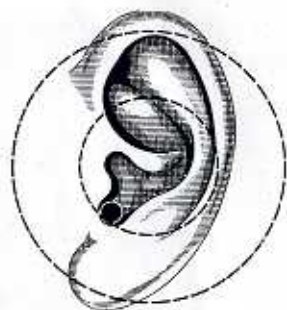


図-5

④SR-X_{MK-2}の振動膜は2.0 μ 厚という極薄のフィルムですから、耳にかけるときは、本体を抑えつけないよう、ていねいにお取扱いください。

㊦SR-X_{MK-2}を耳にかけてから

①SR-X_{MK-2}は周波数特性がフラットなので、トーン・コントロールによる低音・高音の強調は不要です。

②SR-X_{MK-2}は歪感がないので、つい音量を大きくしがちですが、過大入力を加えないようご注意ください。

③高音域にノイズ(テープのヒスやレコードのスクラッチ)が目立ったり、低音域にノイズ(ゴロゴロいったりゴーッという連続音)がきこえるときは、そのプログラム・ソース、ピックアップ、ターンテーブル、テープ・レコーダー、アンプなどに問題がないか、おしらべてください。

㊦SR-X_{MK-2}を使わないとき

①使わないときでも、プラグをアダプターやアンプのコンセントから引抜く必要はありません。

②使わないときは、布かビニールでカバーして、ホコリを避けてください。

③避けて頂きたい置き場所は、アンプのような発熱体の上、暖房機器のそば、直射日光の当る場所などのような高温のところ、それと湿度の高いところです。

㊦SR-X_{MK-2}を使うとき便利なもの

①SR-X_{MK-2}のコードは、線間容量を小さくする必要から、現在の太さ/長さに設計されたもので、もし長さを伸ばしたいときは、長さ5mの延長コードSRE-15(別売)をお使いください。

②SRE-15は、コンセント・ボックスSRE-B3(別売)を併用すれば、SR-X_{MK-2}を3組つなぐことができます。

㊦SR-X_{MK-2}の専用アンプを自作するとき

①専用アンプとしてSRA-3Sがありますが、この回路は自作困難なので、自作のときは、図-6のような管球式OTLアンプをおすすめします。

②この回路の特長は、+電源の使用により、出力管プレート電位をほぼ±0Vにして、イヤ・スピーカーとの間に結合用のCRを除き、できるだけ直結を活用してあることで、音質もすぐれています。

③この回路は指定どおり組めばまず問題はなく、VR(5K-B)は中点におき、終段プレート電位が10V以上も差があるとき、上下いづれかに動かして調整します。

④このアンプの規格は、最大出力/280V、増幅度/52dB、入力感度/250mVです。

⑤アンプに必要な6極コンセントSRCは別売していますのでお求めください。